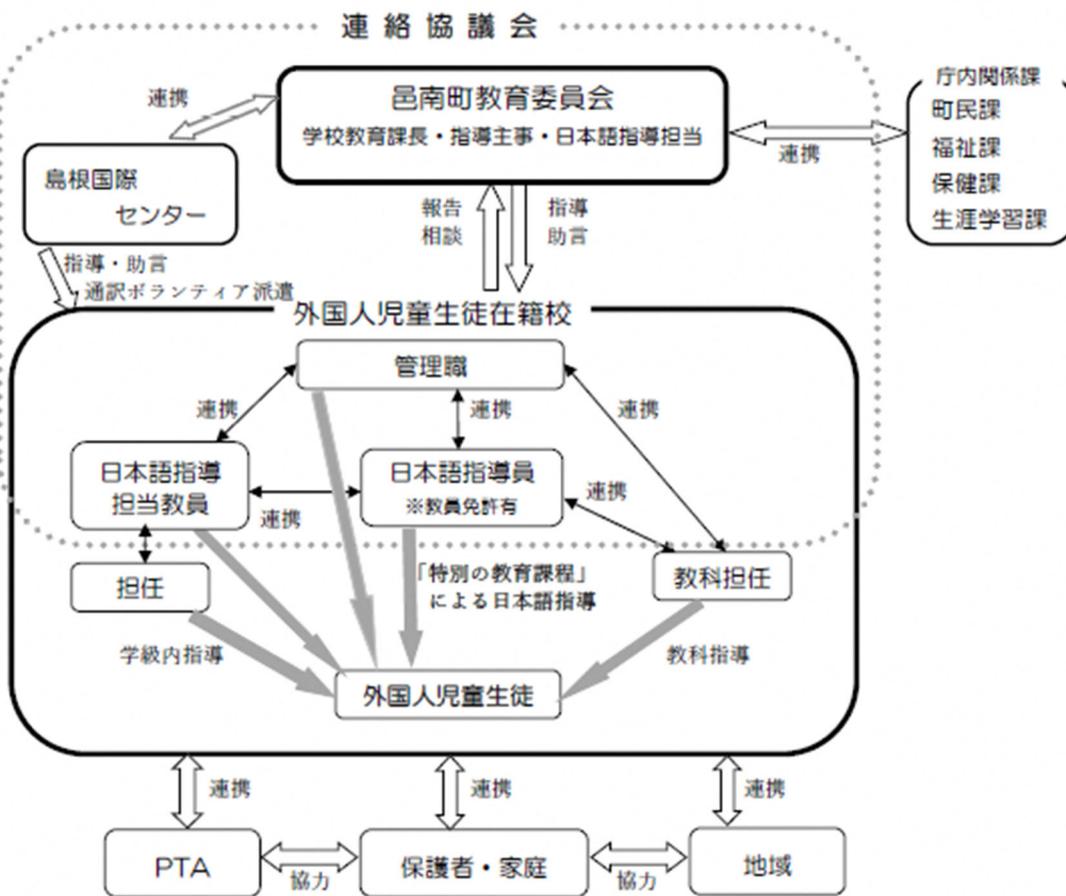


令和4年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)  
 事業内容報告書の概要

地方公共団体名【 邑南町 】

令和4年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)



2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(1)連絡協議会の実施

- 教育委員会、学校管理職、担任、日本語指導担当教員、日本語指導員、しまね国際センター見識者による連絡協議会を年3回実施した。

(2)学校における指導体制の構築

- 対象生徒在籍校(1校)を拠点校とし、日本語指導員1名を派遣した。

(3)「特別の教育課程」による日本語指導の実施

- 「特別の教育課程」を編成し、個別の指導計画を作成して、個に応じた日本語指導を実施した。  
 4～5月 「特別の教育課程」編成、個別の支援計画の作成。計画に基づく日本語指導開始  
 8月 指導の振り返りと改善  
 12月 指導の振り返りと指導方法の検討、改善

(4)成果の普及

- 町ホームページへの日本語指導実践の概要と成果の公表

(7)ICTを活用した教育・支援

- ドローンを活用したプログラミング学習
- 翻訳のためのスマートフォン活用
- タブレットドリルの活用。
- タブレットを用いた日本語のスキルトレーニング。

(10)日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

- 日本語指導員を配置し、年間 315時間の日本語指導を行った。
  - ・取り出しの日本語指導・・・1日当たり平均1時間 (5月末まで)
  - ・入り込みによる指導・・・1日当たり平均2～3時間
- しまね国際センターの通訳派遣を利用した、対象生徒と学校との面談(1回)

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

(1)連絡協議会の実施

- 日本語指導の進捗状況や日本語の習得状況などを共有した上で、より個に応じた日本語指導の在り方、対象生徒・保護者との関わり方を検討し、その後の指導等ににあたることができました。
- しまね国際センターの方に指導助言をいただくことで、学校の悩みや困り感の解決方法を得ることができ、実践に活かすことができました。
- 家庭の状況をより詳しく理解するため、連絡協議会に保護者を招くことや、必要に応じて福祉・保健関係部局の職員等を招くことも検討する。

(2)学校における指導体制の構築

- 日本語指導員の配置及び通訳派遣により、日本語指導体制の充実を図ることができた。
- 教員が生徒との関わり方について共通認識を持つことや、日本語指導と連携した教科指導・支援について検討・確認した。

(3)「特別の教育課程」による日本語指導の実施

- 個別の指導計画に基づいた指導を行うことで、対象生徒の日本語能力の向上を図ることができた。
- 該当生徒の興味関心など、生徒の実態に即した日本語指導を行うことができた。
- 該当生徒の学習に対する意欲の低下もあり、計画通り指導を進めることができなかったが、設定していた個別の指導目標は達成することができた。(個別の指導目標の達成率100%)
- 該当生徒の学習に対する意欲を持続させるため、進路を見据えたロードマップを作成し、本人がそれを理解して学習に取り組めるようにするなどの手立てや、それを実行するための校内及び保護者間連携の在り方などを検討していくことが必要である。

(4)成果の普及

- 町のホームページで公表することにより、邑南町が行っている日本語指導について発信することができた。

(7)ICTを活用した教育・支援

- 対象生徒の興味関心に基づき、ドローンを用いたプログラミング学習を日本語指導の中に取り入れた。該当生徒が意欲的に学習に取り組むとともに、学習言語のスムーズな習得につながった。
- スマートフォンを活用することで、必要な場面で教科書やプリント等の翻訳がスムーズにできたが、日本語の習得状況によって、どこまで使用を許容するかというところを見極める必要がある。

(10)日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣

- 指導員の配置・指導により対象生徒の日本語のステイジレベルが【話す】のスキルにおいて3から4に向上した。
- 通訳派遣により学校の指導内容がよりの確に生徒に伝わるとともに、学校側が生徒自身の思いを理解することにつながった。
- 今後外国人児童生徒が転入した際には、日本指導員及び通訳の派遣のための予算措置を行い、在籍校における指導体制の整備を行う。

本事業で対応した幼児・児童 生徒数	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育 学校	高等学校	中等教育 学校	特別支援 学校
	人 (園)	人 (校)	1人 (1校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)

うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数	/	人 ( 校)	1人 ( 1校)	人 ( 校)	人 ( 校)	人 ( 校)	人 ( 校)
<p>4. その他(今後の取組予定等)</p> <p>○ 対象生徒が帰国したため、令和5年度の外国人児童生徒の在籍予定は0である。よって、次年度日本語指導を実施する予定はないが、今後も外国人児童生徒の転入があることを想定し、しまね国際センター等と連携しながら体制整備を進める。</p>							

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。